



ジェンダーにとらわれず 誰もが生き生きと暮らせる社会を



「2021年 新語・流行語大賞」のトップテンに選ばれた「ジェンダー平等」。「女性だから」、「男性だから」といった性別に基づく偏見や不平等がなく、全ての人が平等に責任や権利や機会を持てることを意味する言葉で、「SDGs=持続可能な開発目標」の17の目標のうちの1つでもあります。
誰もが自分の能力を発揮し、生き生きと暮らすことのできる地域社会の実現について、日頃から問題解決に向けて活動している市民団体と、2つの市内事業所の皆さんと一緒に考えてみました。

■問合せ…男女共同参画推進センター (☎025-527-3624)



株桐朋 企画営業部
地域事業領域リーダー
田中 拓実 さん

女性も働き続けることができますよね。
島山さん 私はたまに「女性の技術者さんは珍しいね」と言われることがありますが。私たちの業界は他と比べて感覚が少し古いのかなというところはありますが、仕事をする上では、性別に関係なく対等に接してもらえていると感じています。
田中さん 職場でも家庭でも、性別によって役割が違うという感覚は特段ないですね。
私の職場では、誰かが休むときにはほかの人が業務をフォローできる体制が整っているため、子どもが生まれたときには2週間の育休を取得することができましたし、普段から家事も育児も妻と分担しています。そういう両親の姿を見て育つ子ど



株源建設
土木部 舗装課
島山 京子 さん



株源建設 総務部
矢澤 沙織 さん

もも、きっと私と同じような感覚を持つていくのではないのでしょうか。
矢澤さん 私もそう思います。娘にも息子にも、大人になったときに家庭のことができるようになってほしいので、小さいうちからいろいろと教えるようにしています。
池原さん 皆さんの職場では、昔と比べて良い状況になっていきますね。しかし、私の知る民間の女性団体には「職場で不当な扱いを受けた」という非正規雇用の女性などから相談が寄せられています。また、民間の調査では新潟県の女性社長率が全国最下位であり、女性の社会参画がまだ十分に進んでいないことの表れだと感じます。この現状は、変えていかなくてははいけません。

——誰もが自分の望む生き方ができる社会を実現するためには、どんなことを心掛ければ良いと思いますか
島山さん 例えば子育てのために一

——はじめに、「上越市の男女共同参画を推進する会」のお二人から、会の活動について教えてください



上越市の男女共同参画を推進する会 代表
阿部 和子 さん

阿部さん 「上越市の男女共同参画を推進する会」は、1995年に中国の北京で開催された「世界女性会議」をきっかけに設立されました。女性も男性も、家庭・地域・職場で平等に関わって参画できる社会となることを目指して活動しています。
会では、女性の地位向上や人権に関するドキュメンタリー映画の上映会、勉強会などを開催するほか、市の「男女共同参画基本計画」の策定にあわせた提言も行っています。今後は次の若い世代の人たちからも参加してもらい、活動の輪が広がればいいなと思います。
池原さん 私は、乳児を抱えて勤務していた40年ほど前、上司に退職を迫られました。その後も男性中心の労働形態や意識に苦勞した経験と、いまだに差別の実態が改善されてい

度仕事を辞めてまた就職したり、専業主婦・主夫になったりと、性別を問わず、ライフステージに応じていろいろなお仕事を誰からも批判されることなくできるのが理想ですね。
矢澤さん 誰もが自分の思い描くように生きられるのが一番大事ですよ。小さい頃からの、いわば「刷り込み」のようなものはあると思うので、子どもたちが性別に基づく偏見を持つことなく育つようにしたいです。
田中さん 私たちの世代と上の世代とは、感覚が異なっている部分もあると思うので、「ちよつと違うんじゃないかな」と思ったときには、その気持ちを正直に相手に伝えることも大事なのではないでしょうか。
阿部さん そのとおりですね。どんな小さなことでも、おかしいと思ったらお互いに口に出して、一緒に解決していくことで前進していくのではないかなと思います。

松苗さん 「男性だから」、「女性だから」と性別を前置きするのはなく、「この人は何が得意なんだろう」というポジティブな視点を持って、相手のことを考えられるといいですね。デザインで例えると、「女性は柔らかない雰囲気が好き」「男性はかっこいいものが好き」という固定観念



上越市の男女共同参画を推進する会 副代表
池原 浩子 さん

——事業所にお勤めの皆さんは、普段仕事をすることで性別の違いを意識することはありますか？

松苗さん 重いものを運ぶときに力のある男性に声を掛けることはありますが、特別に意識することはありません。私の職場では、責任あるポストへの登用も、性別に関係なく行われていると感じています。
私は産休・育休や、リモートワーク制度を活用しながら勤務していますが、そういった制度があつて、気兼ねなく使える職場環境があれば、



株桐朋 企画制作部
アートディレクター
松苗 貴美 さん

にとらわれがちですが、その逆であっても構わないし、そういった多様性を誰もが認められると、より良い社会になるのではないのでしょうか。
——お互いに思いやり、認め合える、そんな社会を私たちみんなできつていきたいですね。



上越市の男女共同参画を推進する会ではメンバーを募集しています。
▶問合せ…代表の阿部さん (☎・FAX025-522-4654)

「私たちと一緒に活動しませんか？」

男女共同参画推進センター 講座のご案内

家庭や職場、地域における身近な男女共同参画をテーマに、各種講座を開催しています。皆さんの参加をお待ちしています。



おちばたつお
道場達郎センター長